

宇多川探検第3弾の参加者から寄せられた感想文を紹介します。

(Aさんの感想)

宇多川探検・no.3に参加して考えたこと

2019.6.1(土)晴れ、時間前に全員揃い、素敵な手書きのイラスト入り地図、中村城の古地図、カラーのお堀の水路図が配布された。実行委員の素敵な手づくり作品！！

初めに、概略説明を受け、400年も昔のこと、宇多川の水を利用し、260年もの間、どのようにして城を守ったか興味を抱きつつ、7キロの学習の旅に、いよいよアリーナそうまを、いざ出発。歩き気ながら、決して強大とは言えぬ相馬藩が、宇多川からお堀までの高低さを、大した道具も無い時代に、どのようにして測量し、岩をくり貫き城の周りに軍事的な堀を巡らしたのかを想像したが、この一大土木工事は私の知識を遥か越えるものでした。本当にたいしたものだ。それは軍事的に水を利用した例ですが、方や宇多川の水は、上流から下流まで、私達の命、動物の命を潤してもらっています。水道水として私達の飲料水としても提供してくれています。有り難い有り難い。

水は、雨水が～山に降り～豊かな土壌に保水され～徐々に川に浸透し～海に流れ～蒸気となって空に上り、雨雲となって再び山へと、一巡するのに、830年かかるとか？この水の流れは、地球にとって、人の血流にも似ているようで、地球そのものが生き物に思えます。考えてみれば、水の効用は、計り知れないものがあります。想像してみてください。昔、水神様や、山ノ神様、雷神様、竜神様を祀って、水に感謝した先人の価値観がありました。私達が学ぶべきものがあるように思います。今や、山や川は、場所によっては、タイヤやバッテリーや洗濯機、冷蔵庫、プラスチック製品など、大小様々なゴミ捨て場になっています。私たち一行は、道路や川のゴミを拾いつつ歩きました。今後も川も海も道路も、我が家の室内のような気持ちで、綺麗にして後世に残したいものです。一日一善居士より。 以上

(Nさんの感想)

今回は、霊山の水源に発した水が相馬市中にどう取り込まれ、人々の暮らしを潤してきたのかを見ました。川岸に掘られた取水口は思ったより高い位置にあり、今より多くの水が宇多川を流れていたことを想像させます。また市内にめぐらされた堀を辿ることで、市中の人々がどのように水と付き合ってきたのかをつぶさに見ることができました。

きっと掘割の水が生活の場であったときは、滔々と清水が流れていたことでしょう。今は至る所が枯葉等で詰まり、流れも淀んでいました。掘割を復活させ相馬城下にきれいな水を流すことは、「城下町相馬」の観光にも大いに貢献しそうだと感じました。